



災害医療から防災に備える

ハコ・マチ・ヒトづくり学習会



2022年1月29日

日本プライマリ・ケア連合学会滋賀県支部



感謝

2018

西日本豪雨災害



①津田由起子

全国小規模多機能型 居宅介護事業者連絡会 副代表
小規模多機能ホームぶどうの家真備 介護支援専門員

「小規模多機能ホームぶどうの家真備の災害対応とサツキPROJECT」



②石田篤史

みんなでつくる財団おかやま 理事

「支援の思いを形にする。～西日本豪雨とももたろう基金～」



③浅野直

吉備医師会／あさのクリニック 院長
みんなでつくる財団おかやま 代表理事

「BCPってやっぱり必要？～西日本豪雨の経験から～」

西日本豪雨災害 2018年7月

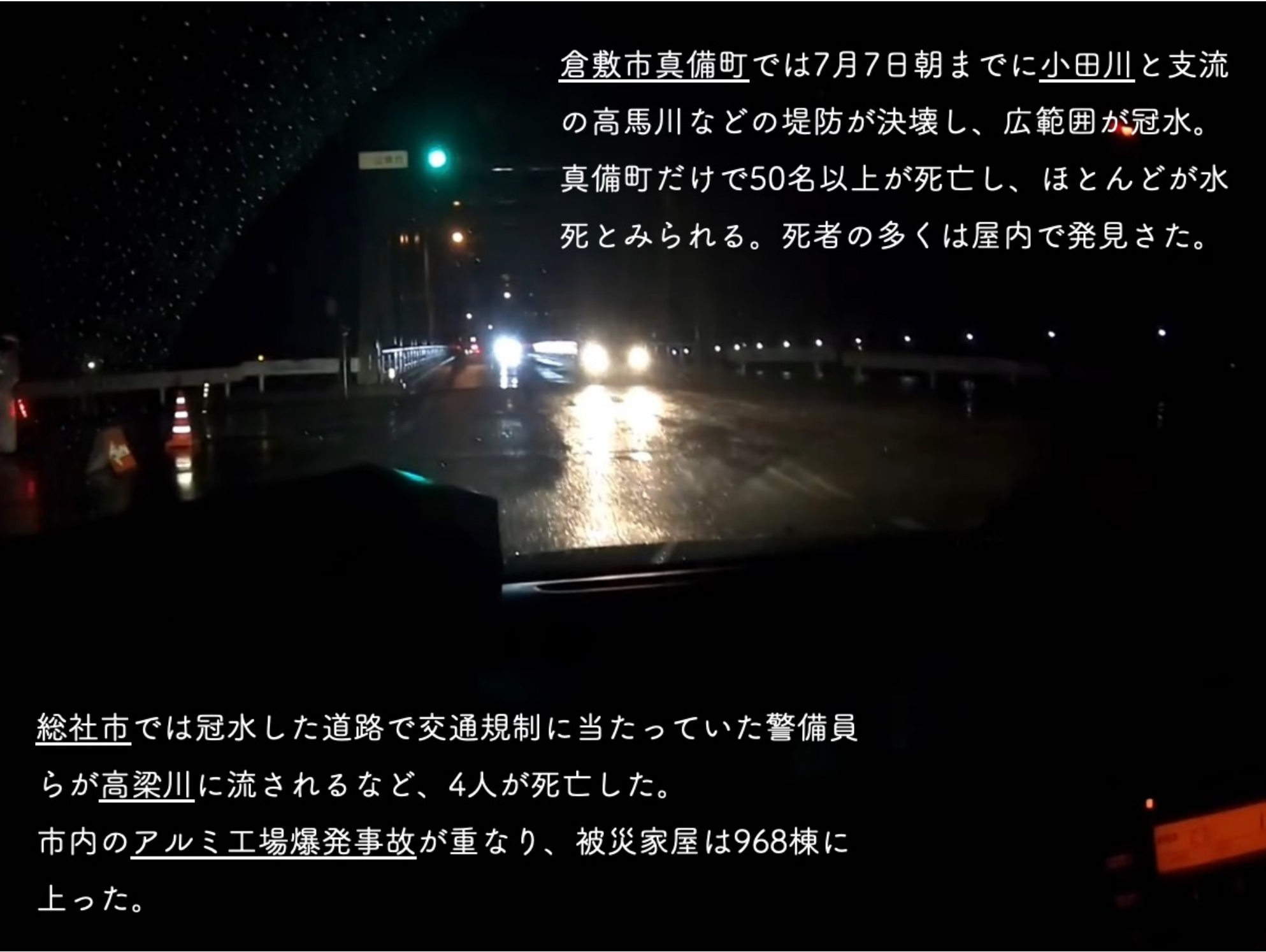
7月5日から降り続く
記録的豪雨

高梁川、小田川流域

倉敷市真備町の浸水

総社市北西部の浸水



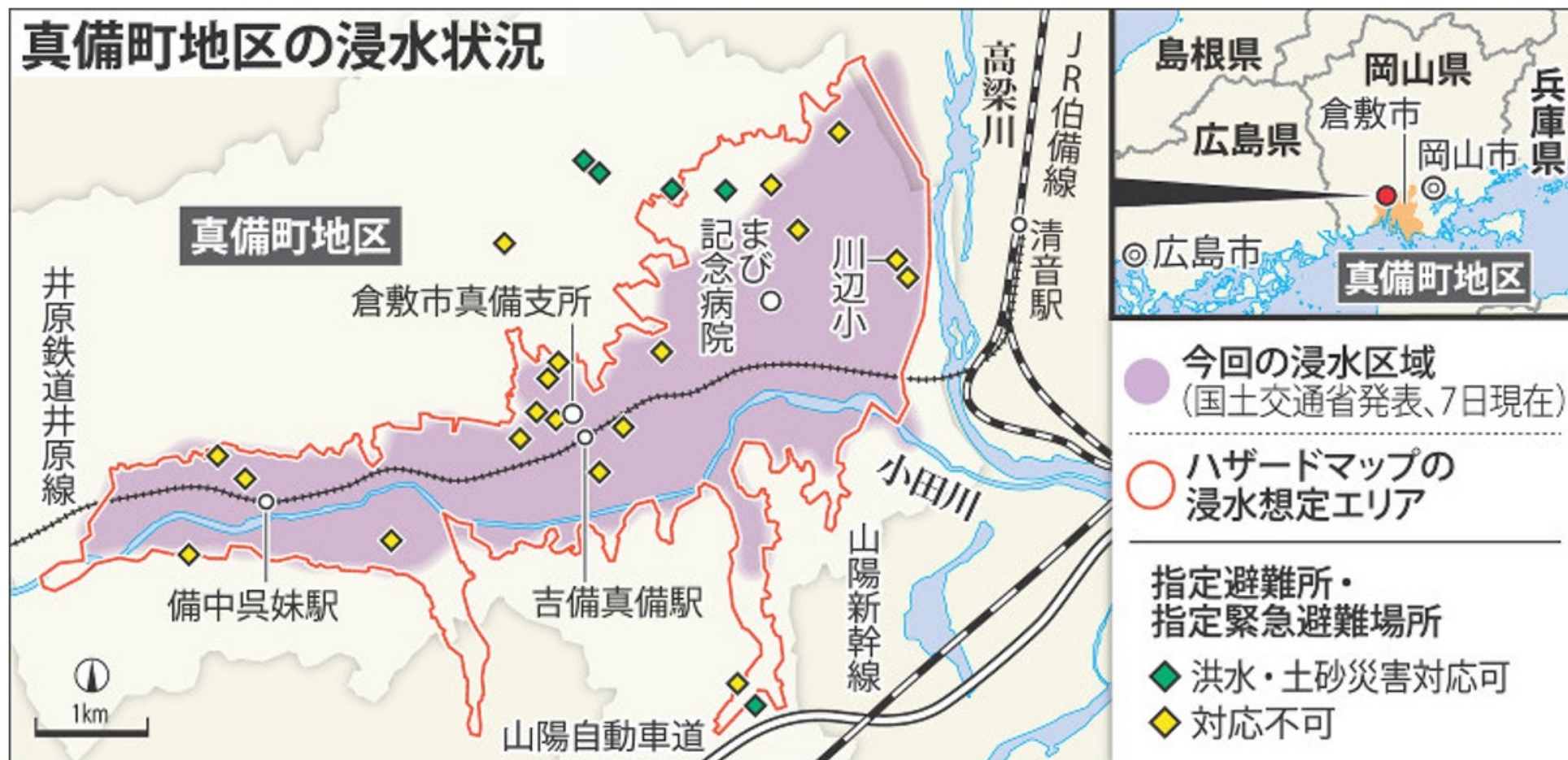


倉敷市真備町では7月7日朝までに小田川と支流の高馬川などの堤防が決壊し、広範囲が冠水。真備町だけで50名以上が死亡し、ほとんどが水死とみられる。死者の多くは屋内で発見された。

総社市では冠水した道路で交通規制に当たっていた警備員らが高梁川に流されるなど、4人が死亡した。

市内のアルミ工場爆発事故が重なり、被災家屋は968棟に上った。

真備町地区の浸水状況



● 今回の浸水区域
(国土交通省発表、7日現在)

○ ハザードマップの
浸水想定エリア

指定避難所・
指定緊急避難場所

- ◆ 洪水・土砂災害対応可
- ◇ 対応不可





①津田由起子

「小規模多機能ホームぶどうの家真備の災害対応とサツキPROJECT」

被災当日、私たちがどのように考え、利用者さん宅を回り避難させ、その後どう動いたのか。救えなかった命についての後悔から、誰もが助かるための設備と日頃から気にかけてあった暮らしの取り組みをご紹介します。



②石田篤史

「支援の思いを形にする。～西日本豪雨とももたろう基金～」

災害発生から時間の経過とともに、現地の状況はドンドンと変化していきます。そうした変化に対応して、寄付を通じて支援したい思いと現地での支援をカタチにする災害支援基金「ももたろう基金」の紹介と一市民としてまた医療者としてのかわり方をご案内します。



③浅野 直

「BCPってやっぱり必要？～西日本豪雨の経験から～」

2018年7月の西日本豪雨災害において、開業医かつ地区医師会員として、出身地の40代の人間としてどのように動いたか？

そして、必要性は感じながらもなかなか取り組みにくいBCPについて、入り口に立つ過程をお示ししたい。